

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第8号
2017年7月30日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

終戦記念日に思うこと

2017年7月
世話人 佐竹 哲

今年も終戦記念日が近づいてきました。戦後72年が経過し、現実の戦争を知らない人が大半を占める時代になり、今、もし戦争が始まるならば私たちの日常生活がどうなるのかを想像出来る人はほとんどいないでしょう。だから、私たちは、過去の戦争の歴史から学ぶことがとても大切に思います。

戦争の歴史とは過ちの歴史です。かつての日本人、つまり私たちの親や今亡き身近な先輩等も過ちを犯しました。こんなことを言うに「親や祖父母、先輩を批判するのか、彼等はむしろ被害者だ」とお叱りを受けるかもしれませんが、人類の歴史は、そもそも戦争の歴史であり、殺戮、侵略を繰り返してきた過ちの歴史であります。政治家や軍部中枢だけが過ちを犯したのではありません。それを支持し、下から支える多くの国民がいなければ戦争は出来ないので。戦争体験者は「あの時は仕方がなかった。」と言われますが、その無念の思いにこそ私たちは学ばなければなりません。国策を信じて敵国の人を「鬼畜」と思い込み、国にだまされた者にも、だまされた責任があるのではないのでしょうか。

一般市民は、戦争に巻き込まれて被害者の側面が強いのと思いますが、かつて私たちの先輩は軍国教育によりマインドコントロールされ、自分で考える主体性を奪われたから、命令ひとつで中国の人を大量に殺し、朝鮮半島の人をいじめる加害者になったのです。同じ過ちを繰り返さないためには、権力者に主体性を奪われない努力をし、権力から独立することです。つまり、自分で考えることです。

現在、安倍政権の支持率が急下降しています。権力に反旗を翻す国民が増えた証しです。いよいよ歴史に学び、本当の国民主権を回復し、平和な社会を守りましょう。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

関ヶ原の火薬庫からのメッセージ

世話人 堀江 法夫

梅雨明けを感じる 7 月 15 日(土)、9 条の会・養老のメンバー3 人で関ヶ原町玉地区に今も残る「旧陸軍火薬庫」の跡地を尋ねました。今回、この火薬庫跡地に大変造詣が深い大岡明臣氏と私の知人の加納孝子氏に案内していただきました。私は改めて戦争の恐ろしさを知ると共に、戦争の残した歴史を後世に語る思いを強く持ちました。

場所は関ヶ原鍾乳洞や関ヶ原スケートセンター跡一帯です。スケートセンターの貸靴庫は火薬庫であったということは知っていましたが、全体を案内していただき驚きの連続でありました。

まず、今も残る衛門（正門）、圧倒的な存在感のある石柱です。(写真①) 現在は右側の 2 本のみになっています。そこを入ってすぐにコンクリート製の手洗い



場のような建物跡があちこちにありました。ここから火薬 (写真①衛門)

庫の敷地です。周囲 6 km で面積は 270 ヘクタール(81 万坪)ほどです。そこに地上火薬庫 29 棟、半洞窟式火薬庫 19 棟、洞窟式火薬庫 5 棟という東洋一の火薬庫があったのです。火薬庫はほとんど同じ構造になっています。入口の部屋にあたる外庫と奥に続く内庫からなります。さらに内庫は前室と本室からなっていました。本室は幅 7.5 奥行 24m 高さ 3.4m で体育館を思わせる広さでした。(写真②) さらに驚いたのはこの本室を取り囲むように床から天井すべてに空気の空間があるようにしてあるのです。魔法瓶のように室温を保つ構造になっています。



(火薬庫入り口)



(写真②本室内部)

これが日露戦争後から計画され大正の時代に創設されていたのです。なぜこれほどの火薬庫がこの関ヶ原つくられたのか。それは、この地が東海道線関ヶ原駅に近く、小高

い山々に囲まれていたこと、さらに伊吹山の乱気流があることで攻撃が少ないことがあったとされています。

所々コンクリートから 2~3 cmの太い鉄筋がむき出しになっていました。当時、物資が不足する中でも最新の技術が優先されていたようです。今も私を見ている形で残る立哨台（兵隊の見張り台）。(写真③)



(写真③立哨台)





火薬庫は洞窟式、半洞窟式もまず、すべてコンクリートで建てられた後に、山のように土を盛りそこに木を植えて外観は全くわからないようにされていました。後方には堤防のような土塁がつくられていました。

この火薬庫は大正時代、すべてに優先されて進められたのでした。どこかの国ではなく日本で、それも関ヶ原の地で 100 年前に作られ、この後太平洋戦争で 300 万人の日本人と 2000 万人のアジアの人たちの犠牲につながったのです。

1945 年、日本は 2 度と戦争しない国になりました。しかし、悲しいことに今、再び戦争ができる国になろうとしています。平和が大切と思いを新たにしました。関ヶ原の火薬庫は後世に伝えるべき大切な歴史遺産です。案内していただいた大岡様ありがとうございました。



◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

- ★8月 5日（土）午後1時半と午後5時から2回上映、映画「スノーデン」
場所：大垣市中川ふれあいセンター
- ★8月19日（土）午前10時半より集会とパレード
場所：岐阜市金公園
沖縄から山城博治さんが来岐、訴えます。
 山城さん
- ★8月21日（月）午後6時半より「ヤンバルの森から」お話ツアー
場所：大垣別院教務所
講師：安次嶺現達さん
 安次嶺さん
- ★9月 2日（土）午後1時半より「9条の会・岐阜県交流会」
場所：各務原市産業文化センター
講師：渡辺治さん（一橋大学名誉教授）
 渡辺さん
- ★10月 8日（日）午後1時半より「9条の会・おおがき」総会
場所：ソフトピアジャパンセミナーホール
講師：半田滋さん（中日新聞記者）
 半田さん
- ★10月 30日（月）午後1時半より大垣警察市民監視事件第4回口頭弁論
場所：岐阜地裁（301号法廷）

編集後記

「戦後保守は終わったのか？」

最近、上記のタイトルによる政治学者の共同研究が行なわれ、研究成果として2015年11月に同タイトルの本が角川新書から出版されました。

それによると、戦後長きにわたる保守政権を支えてきたのは、派閥間の切磋琢磨によって幅広い合意形成を旨とした「中道保守」であったそうです。

ところが小泉構造改革などを経て、議員の世代交代が進むなかで、たとえば戦後世代の議員の中から次のような言葉が出てきます。「直接戦争を体験された世代は、戦争はもう本能的にダメだと考える。ところがその世代がだんだんリタイヤされていくとなぜダメなのかと理屈で説明しないとイケなくなる。」
(林芳正衆議院議員)

かくして戦後保守を牽引した中道保守勢力は、本能に頼り…世代継承する努力を怠った。と、野中拓務自民党元幹事長の次のような嘆息を紹介します。「戦争体験を世代継承できなかったと反省している…自民党に謙虚さがなくなってしまった。」

玉（たま）の火薬庫の視察に同行して、野中さんの言葉が思い起こされました。

問山 尚義（世話人）

旧スケート場の貸し靴場に使用された半洞窟式火薬庫跡（玉）関ヶ原町、玉現在9条の会でウォーキングを企画中



連絡先

「9条の会・養老」世話人
090-9183-0444 中野一美（代表）
090-9894-0444 佐竹 哲
090-2348-0719 問山尚義
090-4857-1385 堀江法夫
fax(問山)
0584-71-8746
E-mail(問山)
toiyama@ninus.ocn.ne.jp